

大津市立仰木中学校生徒および近隣住民との
壁画共同制作についての報告

Report on a Collaborative Mural Project by the Students and
Teachers at Otsu Municipal Ohgi Junior High School Students
and Local Residents

藤井 俊治

Toshiharu FUJII

大津市立仰木中学校生徒および近隣住民との 壁画共同制作についての報告

Report on a Collaborative Mural Project by the Students and Teachers at Otsu Municipal Ohgi Junior High School Students and Local Residents

藤井 俊治
Toshiharu FUJII

助教（共通教育センター・教育連携推進センター主担当：絵画）

In 2021 I oversaw the joint creation of a mural painting by students and teachers at Ohgi Junior High School in Otsu City together with local community members. In this paper I report on the project, present the results of a questionnaire survey, and examine the nature and significance of collaborative work and the role of an art university.

1 はじめに

本稿は、2021年度に私自身が担当した大津市立仰木中学校における壁画の共同制作についての報告であり、本制作に関わった方のアンケート調査からこの共同制作を振り返るものである。仰木中学校の全校生徒が参加し、また、仰木中学校教員、近隣の地域住民、そして本学も関わった本共同制作を通して、共同制作の本質や意義、それに携わる芸術大学としての役割を確認する。

2 依頼

2021年8月下旬、本学に仰木の里学区自治連合会と大津市立仰木中学校から「生徒がデザインした桜の絵を校舎に描きたい」という依頼があり、本学の教育連携推進センター〔註1〕と地域連携推進センター〔註2〕がお話を伺った。

依頼の経緯をお聞きすると、本プロジェクトは令和3年度に大津市が推進する「学校夢づくりプロジェクト」の一環であるという。「学校夢づくりプロジェクト」は、子どもたちの思いをもとに、地域・学校が力を合わせて創意工夫を凝らした夢のあるプロジェクトに取り組み、児童・生徒が主体的に学び、心豊かに生きていくことができる力の育成を目指すもので、子どもたちの発案をいかした自由な発想からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）などの意見を聞き、子どもたちのみならず地域の意見や願いを大切にされた内容を考案して実施した後に、その成果を大津市のウェブサイトで公表するというものであった。大津市の令和3年度当初予算額1310万円（全市立小・中学校へ予算を配分。上限20万円または30万円）が当てられた事業であった。



図1 壁画制作前の校舎の壁



図2 代表生徒との打ち合わせの風景
撮影：高田和子



図3 桜の花の形を切り取った透明シート
撮影：高田和子



図4 木のみを描画している制作初期の様子
撮影：藤井俊治



図5 花びらを描く前の状態
撮影：藤井俊治

3 思いをかたちに

続いて、この依頼に至るまでの間、中学校でどのような話がなされたのかをお聞きした。まず、生徒が中心となって「学校夢づくりプロジェクト」を推進していくためのテーマが整理され、「地域にいいこと」は「仰木中にいいこと」であり、「仰木中にいいこと」は「私にとってもいいこと」であるというテーマが見出されたという。そのテーマから生徒によるブレインストーミングを通して、「仰木中生徒のみならず地域の方も素敵だと思える空間をつくりたい」というアイデアにつながっていったそうだ。このような地域にも開かれた空間づくりのため、仰木中学校校内に、「1 人工芝を敷く 2 シバザクラを植える 3 壁面へ桜を描く」という計画が生まれ、その計画を、1・2については近隣の地域住民の方と、3については本学と連携して実施できないかということによって本依頼につながった。

壁面への絵の描画は、作業時間や作業する人数、必要な画材の準備などの計画ができれば、実施はそんなに難しいことではない。本学ではこれまでも地域連携の取り組みとして教育機関などそのような描画をおこなった実績がある。しかし、この依頼では単に壁画ができればいいのではなく、「学校夢づくりプロジェクト」の趣旨にもあるように、「児童・生徒の主体性を育み、自分たちの力でやりきったという達成感」が何よりも大事に思えた。そこで、私自身が率先して絵を描くのではなく、絵のデザイン、描く時の注意点、必要な画材、描画の方法などの助言のみをおこなう存在として関わることにした。

相談を続けるなかで、制作への関わり方として、一部の生徒が描いたものではみんなの空間にはならないのではという意見があった。そこで、一部の生徒のみならず全生徒、加えて教員、地域住民の方の誰でもが描画に参加できるような方法を考える必要があった。相談を重ね、生徒がデザインした桜の木の部分をあらかじめ壁面に描いておき、桜の花の形にくり抜いた透明の薄いプラスチック製シートを用意し、花びら形に切り抜いた部分のみ絵具が壁に定着することで、花びらの形が浮かび上がるステンシルの技法を用いる方法にたどりついた。この方法によって、たとえ絵を描くことが苦手だと思っている人であっても描画が容易であるとともに、ひとつの画面の中に様々な人が桜の花を描くことで、共同してひとつのものを作り上げているという経験にできないかと考えた。

使用した画材は特別なものはない。絵具は、水に溶け準備と片付けが容易であり、変色や褪色をおこしにくい長期屋外壁画用絵具ターナービックアートカラーを採用し、その他はホームセンター等で販売されている刷毛などを使用した。

描画時間は9月下旬から10月上旬と短期間ではあったが、中学校の先生方が描画する際の方法を事前に生徒に伝えていただいたお



図6 生徒による制作風景 撮影：大橋 祐基

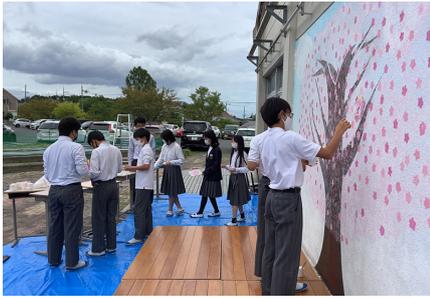


図7 生徒による制作風景 撮影：大橋 祐基



図8 仰木中学校教員による制作風景 撮影：藤井俊治



図9 地域の方による制作風景 撮影：大橋祐基



図10 文字入れの制作風景



図11 完成した作品 撮影：藤井俊治



図12 作品の細部 撮影：山本友輔

かげで描画をスムーズにおこなうことができた。また、中学校の先生から私へ制作途中の写真を送っていただけたことで、私が現地に伺わなくても、次に行く作業の確認や修正点のアドバイスをおこなうことが可能となったことで、制作を中断することなくおこなうことができ、作品は無事に完成した。

完成した作品は仰木中学校文化祭で初披露された。また、『広報おつ』12月15日号にてその作品が掲載され紹介された。その後、12月にこのプロジェクトを中心に進めた生徒会執行部の生徒とともに壁画に「夢プロジェクト since 2021」の文字を描き加えた。

4 アンケート調査

壁画完成から約2ヶ月後の2021年12月、本プロジェクトに中心に関わった生徒24名、教員27名にアンケート調査を実施した。主な回答をみていきたい（詳細なデータは付録を参照）。

「このプロジェクトはどうでしたか？（あてはまるものに○をしてください）」という質問には、生徒・教員ともに「楽しかった」、「皆と協力できた」、「達成感を感じた」、「誇らしく思える」の各項目でとてもそう思うと答えた割合が大きかった。この結果は、「学校夢づくりプロジェクト」のテーマをしっかりと具体化できた成果であったと考える。一方で、「勉強になった」、「地域の方と触れ合えた」は、教員の方が生徒に比べそう思ったと答えた割合が大きく、教員と生徒で回答が異なった。

「今回のプロジェクトでの計画や準備、制作、完成作品において成安造形大学が関わることで感じたこと（良くなったことやうまく進まなかったことなど）を具体的に教えてください。」という質問では、「生徒・教員ともに大学からの専門的なアドバイスが心強かった」という回答がもっとも多かった。また教員からは、「生徒の思いを汲み取ることができたことが自信につながった」や、「芸術が専門でない教員も手順の理解が容易だった」、「生徒の質問に対し、生徒の思いを汲み取りながら適切なアドバイスをしていただき、これなら自分たちでもできるという自信とイメージを持たせていただけた」という意見もあった。本学が関わったことで、専門的な技術が身近になり、誰もが制作に関係できる方法論を構築できたことがこのような意見

につながったと推測する。

「みんなで一つの絵を協力して絵を描く体験をしてみて感じたことを教えてください。」という質問では、生徒からは「楽しかった」という意見が最も多かった。「一体感」、「団結感」を感じた生徒も多く、「新鮮な体験にもなった」と回答があった。教員からは、「生徒一人ひとりが作品に関わったと感ずることができとても良かった」、「教員のみならず地域の方とも連携して制作できたことがよかった」という意見が多かった。

「今後、桜の前のスペースをどのように活用したいですか？」という質問では、共同制作によって“仰木中生徒のみならず地域の方も素敵だと思える空間をつくりたい”という思いが少し具体化したことで、「生徒だけでなく地域の憩いの場として活用していきたい」という意見が多かった。また、教員の中には、「毎年新入生が桜の花を描いてほしい」という意見もあった。このように今後の継続した取り組みへと発展させていくこともこの場の活用方法であろう。

5 まとめ

最後に私自身が本事業に関わったことで得られたことをまとめておく。アンケート調査の結果をみても、本制作が生徒・教員・地域が共同して中学校校内にひとつの新しい場を作り上げることができたことで、生徒のみならず教員にとっても充実したものとなり、学校と地域の新しいつながりのきっかけにつながったことが読み取れた。また、「たくさんの桜の花があっても、その中のひとつが自分の！と、ぱっと見つけられるくらい愛着を持っている」という感想からも、本学も制作に関わってはいるが、芸大の先生に全部を描いてもらって、自分たちは手伝ったという感想はなく、生徒が自分たちの力で作り上げたという主体性・達成感につなげることができたことが読み取れたことがよかったと感じている。さらに今後、新しい場の活用方法を模索していくことが、この取り組みの根幹のテーマである「地域によいこと」＝「仰木中によいこと」＝「私によいこと」へとつながっていくだろう。その中で、今回のアンケート調査では実施することができなかったが、このプロジェクトに参加された地域の方はどのような感想をもったのかを調査し、今後のこの場を共につくっていくことが重要であろう。また、今回の制作で使用した絵具は、屋外用のものではあるが、時間とともに劣化することは確実である。この変化をマイナスと捉えるのではなく、むしろポジティブに捉えることはできないだろうか。例えば、新入生やこの場を利用したイベントの際の参加者に新しい花びらを描き足してもらうという取り組みである。そうすることで、壁画の修復のみならず、今回の描画に関わった人のみで完結するのではない“更新し続ける絵”として様々な人々をこの場へと結びつけていく機能を持

つようになるのではないかと。このような絵の役割についてはさらに検証していく機会を持ちたい。

付録

アンケート調査（2021年12月上旬に実施）

「1 回答いただく方を教えてください。（どちらかに○をしてください）」

教員 27名 ・ 生徒 24名

「2 このプロジェクトはどうでしたか？（あてはまるものに○をしてください）」

<はじめにお読みください>

これは成安造形大学が取り組まれている「夢を形にプロジェクト」についてのアンケートです。回答いただいた内容は本学の紀要（紀要掲載等の記録集）へ報告として掲載させていただきます。今後の美術教育発展のためにもご協力とよろしくお願いいたします。 教員/教育連携推進センター 藤本敦典

アンケート

1 回答いただく方を教えてください。（どちらかに○をしてください）

教員 生徒

2 このプロジェクトはどうでしたか？（あてはまるものに○をしてください）

	まったくそう思わない	普通	とてもそう思う		
楽しかった	1	2	3	4	5
難しかった	1	2	3	4	5
勉強になった	1	2	3	4	5
皆と協力できた	1	2	3	4	5
達成感を感じた	1	2	3	4	5
自分の思いや夢を形にできた	1	2	3	4	5
地域の方と触れ合えた	1	2	3	4	5
誇らしく思える	1	2	3	4	5

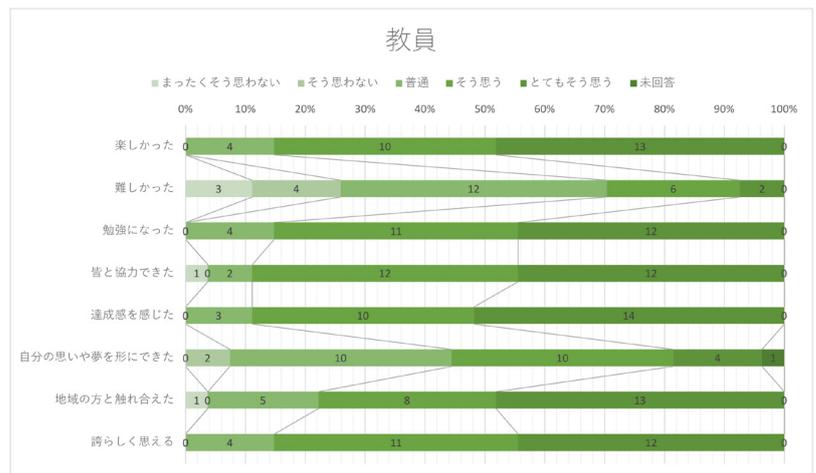
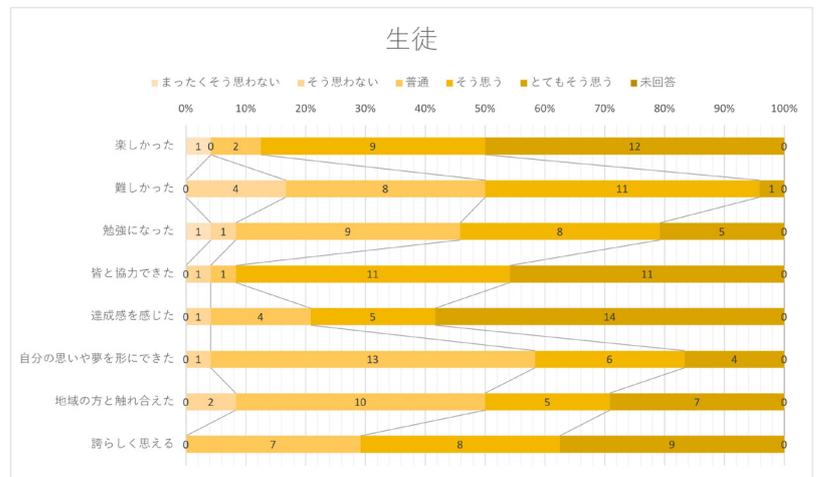
3 今回のプロジェクトでの計画や準備、制作、完成作品において成安造形大学が関わることで感じたこと（良くなったことやうまく進まなかったことなど）を具体的に教えてください。

4 みんなで一つの絵を協力して絵を描く体験をしてみても感じたことを教えてください。

5 今後、校前のスペースをどのように活用したいですか？

ご回答ありがとうございます。

図10 アンケート



「3 今回のプロジェクトでの計画や準備、制作、完成作品において成安造形大学が関わることで感じたこと（良くなったことやうまく進まなかったことなど）を具体的に教えてください。」

生徒の回答

・ 全体的なバランスなどをみてくださってやりやすかった

- ・木のバランスがとてもきれいになったと思った
- ・デザインなど生徒や先生だけで作るよりもより良いものを作ることができた
- ・生徒だけの考えじゃわからなかったのを造形大の人たちの少しのアドバイスで完成度がすごく高くなってすごいと思った
- ・桜の木がよりリアルに表現されていて素晴らしいと思いました
- ・相談するとすごくきれいに描けた
- ・大学の先生がペンキからグラデーションなどの塗り方までとても詳しくだったのでいてくださって心強かった
- ・一見、違うと思ったことでも美術の世界では味になると知れた
- ・参考になることが多く助かった
- ・進みが早く上手にできた
- ・きれいに描けてすばらしかった
- ・型をとって塗るには簡単だったのでよかった
- ・木の幹で手をつけにくかったけれど、幹の周りを描いてくれたことで手をつけられるようになった
- ・どの絵の具が良いかを教えてくれたため、絵具はどれがいいかを悩まなかったため制作に早く取り組めた
- ・よりよい場所になった
- ・大学に行くということもできるのかと思い、大学に行くことが楽しみになった
- ・中学生だけでは出せない良さが加わった
- ・大学の協力がなければできなかった計画があったから、やっぱりプロはすごいと思った

教員の回答

- ・具体的にイメージを形にし、手法（技法）も提案していただき、中学生でも無理なく取り組めたのでとても良かった
- ・同一地域にある中学・大学が協力できたことはすばらしい
- ・専門的な助言が頂けたのは大変有難かった
- ・完成が不安であったが、大学の先生に「困ったら聞ける」と思い切って取り組むことができた
- ・完成イメージを交えながらアドバイスしていただけたことで、子どもたちも自信を持って取り組むことができた
- ・壁画の構想についておおいに参考になった
- ・ステンシルという技法を選んで下さったことで、ハードルが高くなく、誰でも参加できたと思います
- ・完成度がとても良くなっていた
- ・中学校としての考えと、造形大からのアドバイスがMIX できたからできたプロジェクトだと感じた
- ・生徒会との打ち合わせでは、生徒の質問に対し、生徒の思いを汲み取りながら適切なアドバイスをしていただき、「これなら自分

- たちでもできる」という自信とイメージを持たせていただけた
- ・教員も手順が理解できた（コロナ禍の中、全生徒が作品に関われる方法のアドバイスはとても有難かった）
 - ・制作段階においても、途中経過で実際の作品を見てアドバイスしていただけたことでおり完成度の高い作品に仕上がった
 - ・次の入学生がさらに花を増やしてもいいなど今度の発展にもつながった
 - ・生徒—教員の関係だけではなく、大学—生徒の機会がもっと増えるとよかったです、コロナ禍では仕方ない

「4 みんなで一つの絵を協力して絵を描く体験をしてみて感じたことを教えてください。」

生徒の回答

- ・楽しかった
- ・大変だったけど思ったよりスムーズにいった
- ・協力できて仲が深まった
- ・達成感があった
- ・一体感や団結感を感じた
- ・思い出になった
- ・すごい
- ・人生でめったにできない経験ができた
- ・全校生徒で取り組めて嬉しかった
- ・またこういうイベントがあれば率先してやっていきたい
- ・全校生徒でひとつになれた感じがした
- ・コロナ禍の中、あまりみんなで活動する機会がなかったが新鮮な体験となってよかった
- ・人の協力があってできるものはすごいと思った

教員の回答

- ・生徒一人ひとりが作品に関わったと感ずることができとても良かった
- ・少しずつできていく過程を見ていることも楽しかった
- ・絵を描くことが苦手でも、ステンシルの方法で取り組みやすかった
- ・一つの絵を協力して完成させる喜びもひとしおだった
- ・卒業後も学校に来るたびに思い出される良い思い出になった
- ・一体感を感じた
- ・仰木中の一員であることを実感できた
- ・仰木の魅力を発信できている
- ・充実感を持つことができた
- ・不思議な一体感が生まれるような感じがした
- ・感動した

- ・生徒のよい思い出になったのでは
- ・貴重な体験だと感じた
- ・あまり関わることのなかった地域の方とも連携できてよかった
- ・一生の宝物になった
- ・学校に今後残るものができてよかった
- ・地域の人に関わることによってみんなに見守られていると子どもたちが気づいてくれたらいいと思う
- ・言葉をかわしながら絵を描くことができたことがよかった
- ・面倒くさいな～と思う生徒が多いかなと思っていたのですが、ステンシルで取り組む体験を楽しみにしていた子がほとんどで、壁面に好きなようにやっていいというのが良かったのか、もしくはコロナでこのような体験をさせてあげられなかったのかなと思った
- ・たくさんの桜の花があっても、その中のひとつが自分の！と、ぱっと見つけられるくらい愛着を持っている。そういう一つひとつの花が合わさって大きな絵になったと思うと感慨深い

「5 今後、桜前のスペースをどのように活用したいですか？」

生徒の回答

- ・思い出づくりに使いたい
- ・学年関係なく仲良くなれるところ
- ・遊ぶところ
- ・休憩に使ってほしい
- ・憩いの場
- ・学生集会
- ・イベントができる場所
- ・文化祭のステージ
- ・気軽に集まれる場所
- ・写真を撮る場所（フォトスポット）
- ・毎年新入生が桜の花を描いてほしい
- ・地域の人も集まれる場所

教員の回答

- ・人工芝を敷いたので憩いの場となり、発表会などに利用できれば
- ・ステージとしての活用
- ・授業での活用
- ・オープンカフェ
- ・ゆっくり過ごせる憩いの場
- ・地域の方と交流できる場に
- ・生徒のホッとできる場に
- ・今でも昼休みにはゆっくりできるスペースになりつつある

- [註1] 本学では、2018年度より「芸術による社会への貢献」という基本理念のもと、芸術教育を支援する教育連携に積極的に取り組むために「教育連携推進センター」が設置された。この教育連携推進センターは、
1. 生徒の能力や意欲に応じた教育の実現を目指すために、高等学校等相手校と本学双方が連携し、教育のあり方を検討する
 2. 芸術教育における研究を恒常的に深め、次世代に向けた芸術による教育の充実を目指す
 3. 本学の在学学生や学園の資産に対して、この活動によって価値を見出せることを目指す
 4. 滋賀県唯一の芸術系大学としての責任を踏まえ、地域活動の推進や行政からの依頼についても積極的に取り組む
- ことを目的とし、本学と姉妹校・パートナーシップ協定校関係にある高等学校との高等学校での3年間の教育と大学での4年間の教育を繋げた7年間という視点での教育連携、全国の高等学校・美術研究所・日本語学校にて展開される模擬授業への参加、高等学校等個別のニーズに合わせた本学教育職員によるオーダーメイド型の授業プログラムの運営、幼・小・中学校への美術教育と通じた連携、その他美術教育に関わる事業運営等を行う機関である。
- [註2] 本学の基本理念「芸術による社会への貢献」を具現化し、地域・社会・企業と学生をつなぐ架け橋となることを目的に、官公庁、企業、各種団体との間で、さまざまな連携事業を推進している。滋賀県唯一の芸術大学である本学の全てのリソースを活かして「結ぶ、つなげる、広げる」を命題にプロジェクトを展開し、学生のスキルアップや連携先の発展、そして地域社会全体の活性化をめざす。

参考 web サイト

- 「大津市 広報おおつ (2021年12月15日号)」<https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/001/1003/g/kohootsu/R3/45544.html> (2022年1月13日閲覧)
- 「大津市議会 市議会トピックス 令和2年度2月」<https://www.city.otsu.lg.jp/gikai/gikai/topics/R2/39815.html> (2022年1月13日閲覧)
- 「大津市令和3 (2021) 年度大津市予算 (案) のポイント」<https://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/1/20210222002.pdf> (2022年1月13日閲覧)
- 「成安造形大学 教育連携推進センター」https://www.seian.ac.jp/attached/kyoiku_renkei/ (2022年1月13日閲覧)
- 「成安造形大学 地域連携推進センター」https://www.seian.ac.jp/attached/regional_alliances/ (2022年1月13日閲覧)

